

校務DX何から始める？

【教育委員会編】

令和7年8月19日

文部科学省 初等中等教育局
学校デジタル化プロジェクトチーム

竹野 健太

校務DXの概要

P 3

改めて“校務DX”とは / 校務DXの目的 / 次世代校務DX

次世代校務DXハンドブック

P 9

業務の見直し / 汎用クラウドツールの活用 / 生成AI
体制整備 / 共同調達・共同利用 / ルール整備 / 研修

おわりに

P 28

ICTは「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に不可欠なツールであり、こどもたちは文房具のように使いこなしている。一方、教職員の業務では・・・

依然として、多くの校務がアナログ・紙ベースで行われている。

多くの自治体ではシステムを自前サーバに構築し、閉域網で稼働させている。

校務用端末も職員室に固定されていることが多く、ネットワーク環境として時代の流れに合っていない。

“ICTは長時間勤務を解消して、**学校の働き方改革**を実現する上でも極めて大きな役割を果たしうるもの”

『令和の日本型学校教育（答申）』において、ICTの活用に関する基本的な考え方として記載。

GIGAスクール時代の教育DXや働き方改革の流れに適合するためには、校務DXが必須。

Before

- ✓ 校務処理の多くが職員室に限定
- ✓ 紙ベースの業務が主流
- ✓ 教育委員会ごとにシステムが異なるため
人事異動の際の負担が大きい
- ✓ 学習系データと校務系データとの連携が困難
- ✓ 災害対策が不十分な自前サーバで稼働



After

- ✓ **ロケーションフリー化**により、
働き方の選択肢が増加
- ✓ クラウドベースの業務が主流となり、
ペーパーレス化
- ✓ システムの共同利用により、
人事異動の負担が大幅軽減
- ✓ **ネットワーク統合**によりデータ連携が容易になり、**ダッシュボード**機能が実装
- ✓ クラウド利用により、災害によるデータ喪失等のリスク低減

“目的”ではなく“手段”

目標

個別最適な学びと協働的な
学びの実現
(=「令和の日本型教育」の姿)

政策

学校における
働き方改革の推進

施策

校務DXによる業務改善

Before

- ✓ 校務処理の多くが職員室に限定
- ✓ 紙ベースの業務が主流
- ✓ 教育委員会ごとにシステムが異なるため
人事異動の際の負担が大きい
- ✓ 学習系データと校務系データとの連携が困難
- ✓ 災害対策が不十分な自前サーバで稼働

After

- ✓ ロケーションフリー化により、
働き方の選択肢が増加
- ✓ クラウドベースの業務が主流となり、
ペーパーレス化
- ✓ システムの共同利用により、
人事異動の負担が大幅軽減
- ✓ ネットワーク統合によりデータ連携が容易に
なり、ダッシュボード機能が実装
- ✓ クラウド利用により、災害によるデータ喪失
のリスク低減

Digitization

Step 1

紙ベースの
校務をデジタルへ

Digitalization

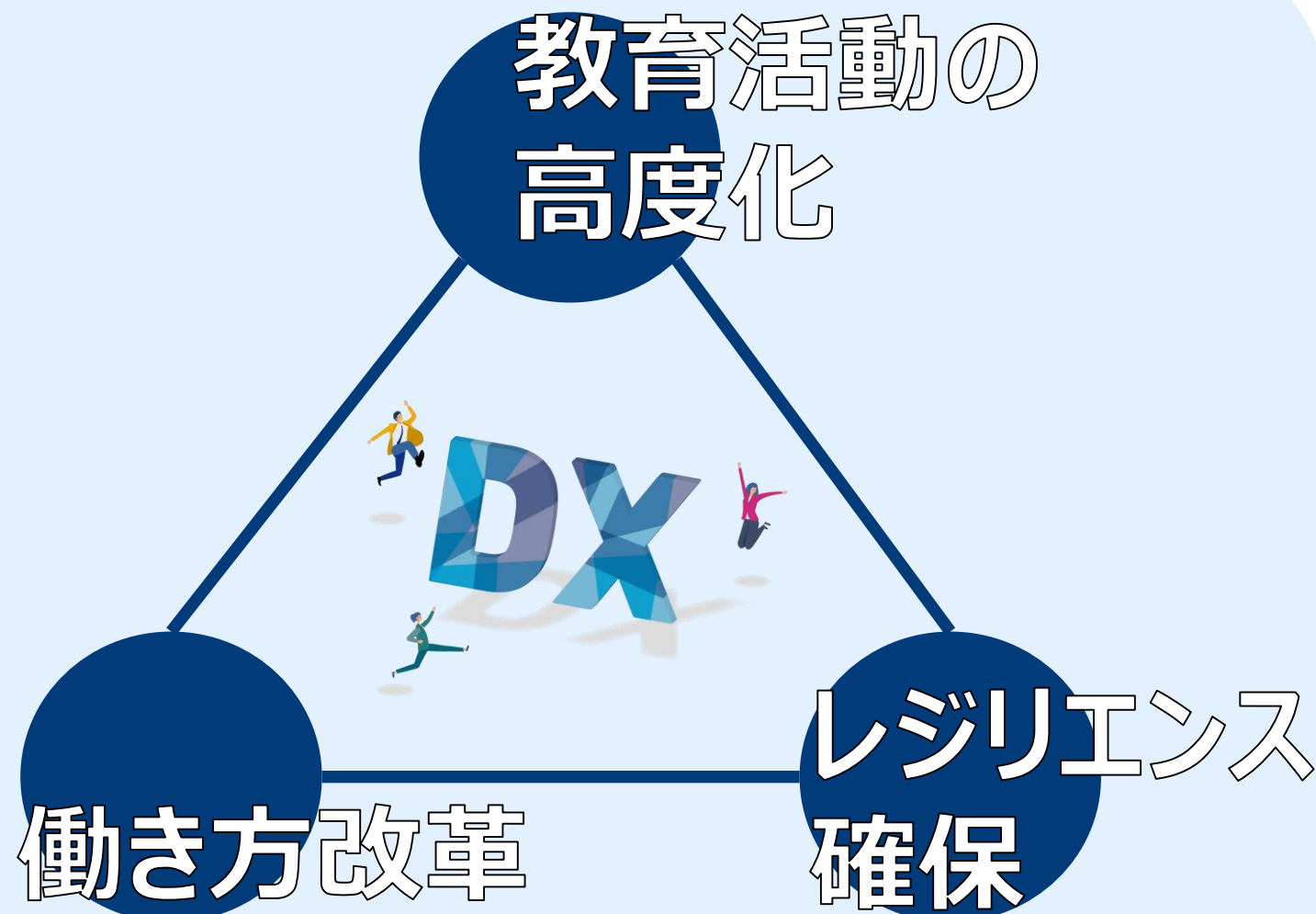
Step 2

クラウド環境を活用した
業務フロー見直し
外部連携の促進

Digital Transformation

Step 3

データ連携による
新たな学習指導
学校経営の高度化



学校における働き方改革

- 汎用型クラウドツールの積極的活用による情報共有の迅速化・活性化、事務負担軽減
- ロケーションフリー化による場所や時間を選ばない働き方の実現

教育活動の高度化

- データ連携によるダッシュボード実装により、個別最適な学びやきめ細かな指導、教育政策の改善を実現

教育現場のレジリエンス確保

- クラウド活用により、非常時のデータ損失等を防止

今の環境でできる校務DX

- 校務DXチェックリストによる自己点検の実施と業務改善
- **次世代校務DXガイドブックの作成・周知啓発**
- 初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドラインの策定



環境整備を伴う校務DX

- GIGAスクール構想支援体制整備事業
- **次世代校務ガイドブックの作成・周知啓発（再掲）**
- 校務DXに係る相談体制の構築（再掲）



教育現場のセキュリティ対策

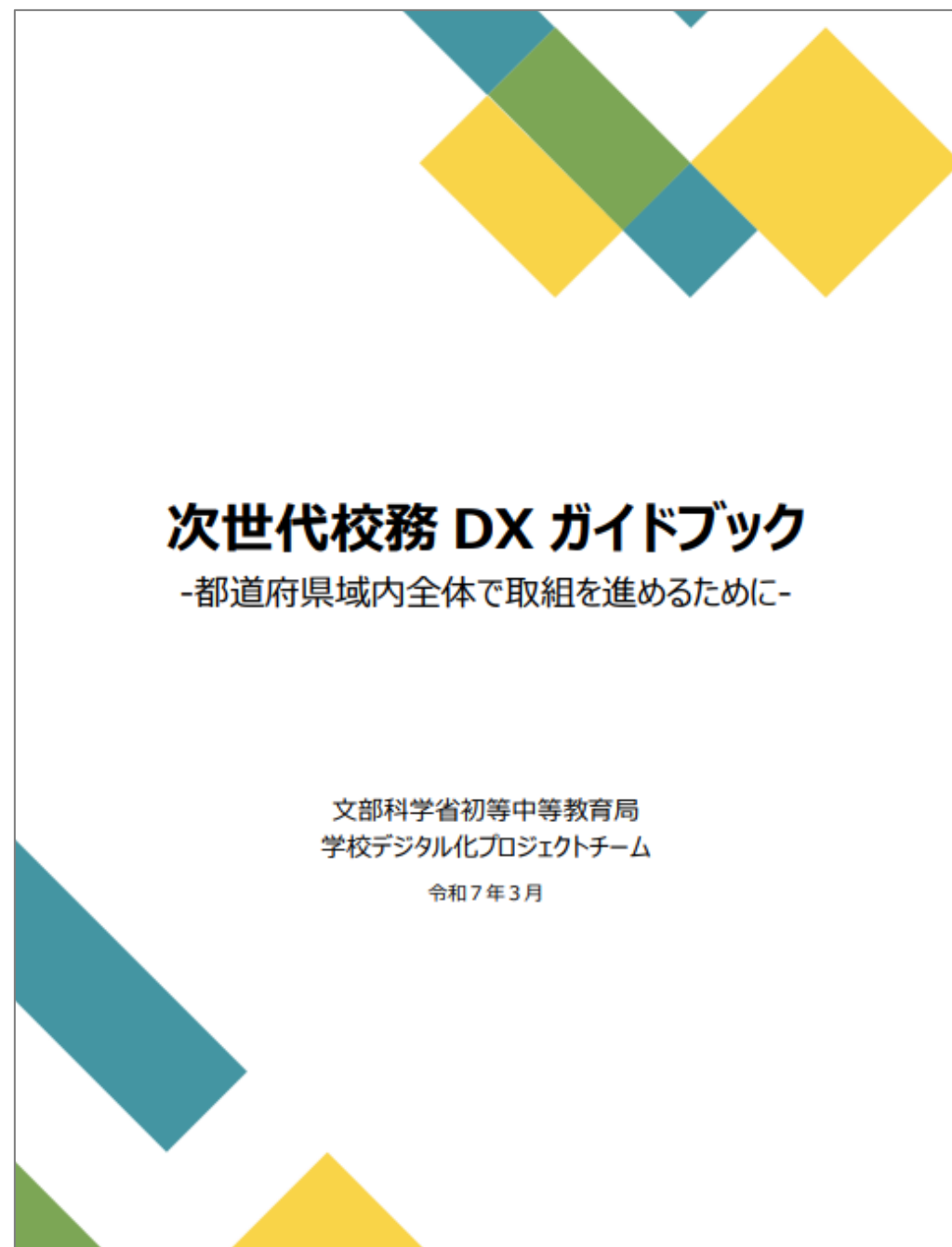
- 教育情報セキュリティポリシーに関するガイドラインの策定
- 教育現場のセキュリティに関する指導・助言



学校における
働き方改革

教育活動の
高度化

教育現場の
レジリエンス
確保



主に都道府県域内全体で次世代校務DX環境を整備・運用する際に必要となる取組やポイントを整理

目次

はじめに

1. 次世代校務 DX の姿
2. 次世代校務 DX を実現するために必要な取組
 - 2-1. 今の環境でできる校務 DX の実施
 - (1) 従来業務の見直し
 - (2) 汎用クラウドツールの活用
 - (3) 生成 AI の利活用
 - 2-2. 環境整備を伴う校務 DX の実施
 - (1) ビジョン・ロードマップの設定
 - (2) 体制整備
 - (3) 次世代校務 DX 環境の整備
 - ① 関連システムの共同調達・共同利用に向けた事前検討
 - ② 次世代校務 DX 環境の仕様検討
 - (4) ルール整備
 - (5) 研修等の実施

3. 参考資料

校務支援システムに搭載することが想定される帳票の参考様式 等

従来業務の見直し

デジタル化はあくまでも**手段**

まずは不必要な業務の見直し、業務フロー等の見直しを

基本的には学校以外が担うべき業務	学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務	教師の業務だが、負担軽減が可能な業務
① 登下校に関する対応	⑤ 調査・統計等への回答等 (事務職員等)	⑨ 給食時の対応 (学級担任と栄養教諭等との連携等)
③ 学校徴収金の徴収・管理	⑦ 校内清掃 (輪番、地域ボランティア等)	⑩ 授業準備 (補助的業務へのサポート)
④ 地域ボランティアとの連絡調整	⑧ 部活動 (部活動指導員等)	⑪ 学習評価や成績処理 (補助的業務へのサポートスタッフの参画等)
※ その業務の内容に応じて、地方公共団体や教育委員会、保護者、地域学校協働活動推進員や地域ボランティア等が担うべき。	※ 部活動の設置・運営は法令上の義務ではないが、ほとんどの中学・高校で設置。多くの教師が顧問を務めるを慣習とする。	⑫ 学校行事の準備・運営 (事務職員等との連携、一部外部委託等)
		⑬ 進路指導 (事務職員や外部人材との連携・協力等)
		※ 必要に応じて、児童生徒・家庭への対応 (専門スタッフとの連携・協力等)

① 目的に照らして、不必要な業務の見直しや、業務フローの見直しを行う
従来、慣例的に行われてきた業務も再点検し、必要性が低いものは廃止を

②' 廃止！！

② デジタル技術を活用して適正化することを検討

“今の環境でできる校務DX” –汎用クラウドツールの活用–

情報共有などシンプルな校務は積極的な**汎用クラウドツール**の活用を
教務・保健・学籍等に関するものは校務支援システム（セキュアな環境下）で

GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト

～学校・学校設置者の自己点検結果～

〔確定値〕

令和7年3月26日

文部科学省初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム

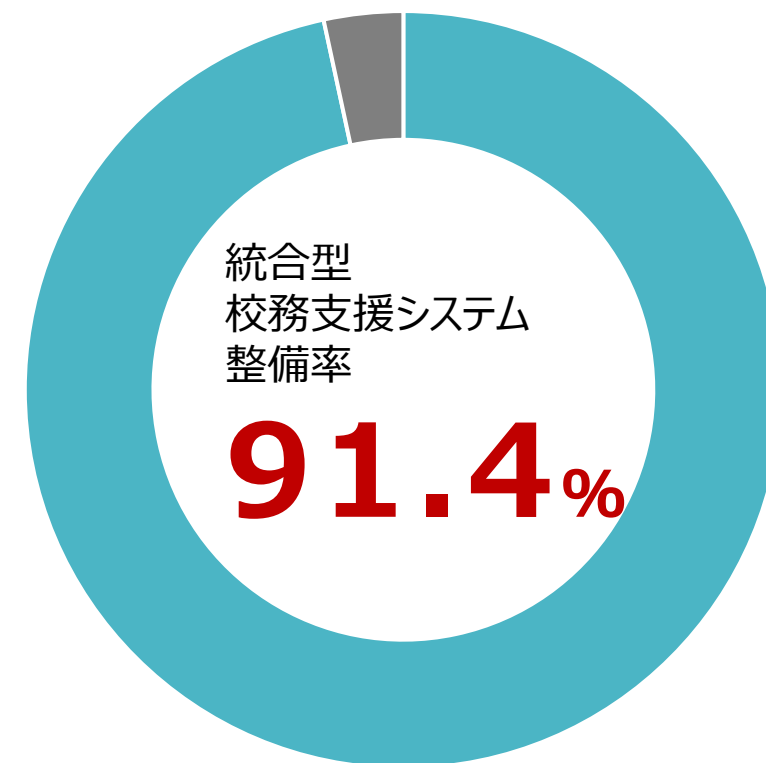


文部科学省



【操作体験】

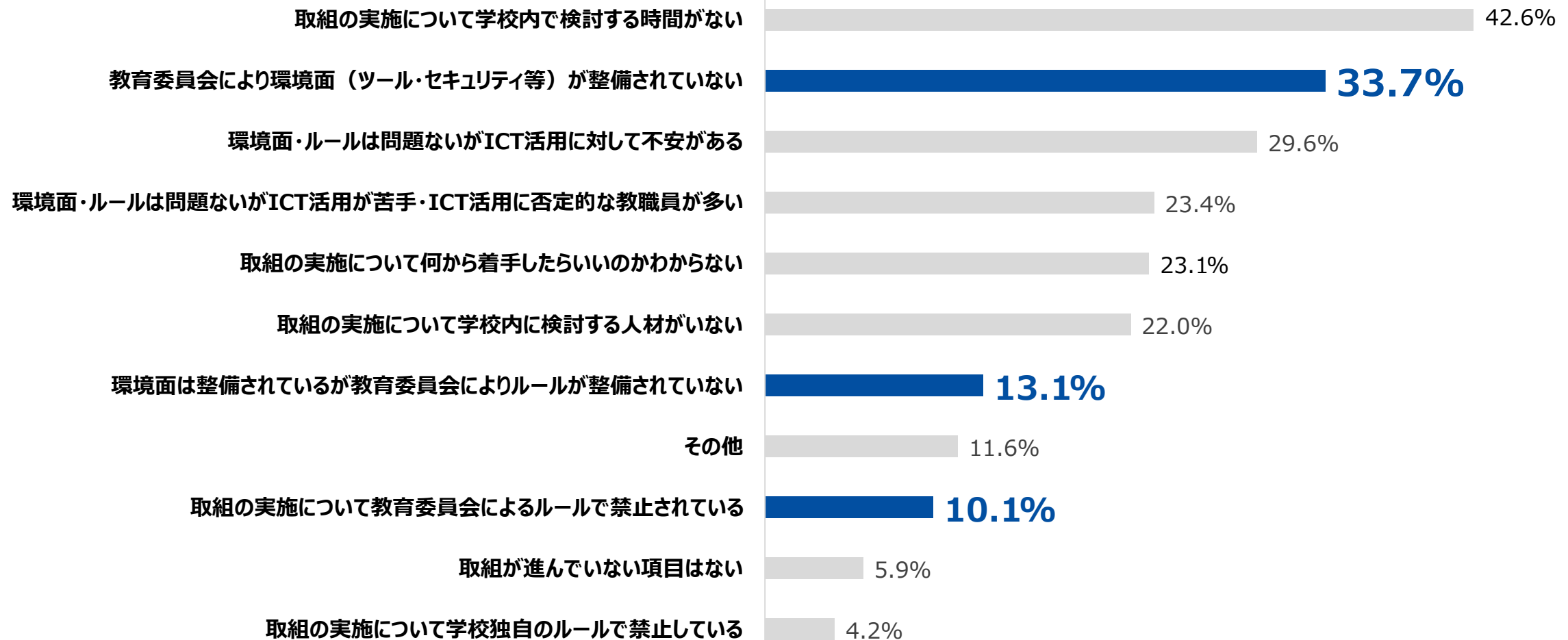
アンケート機能で、欠席等連絡システムを
作成・運用しよう



“今の環境でできる校務DX” –汎用クラウドツールの活用–

教育委員会による環境整備、ルール整備について点検を（対応策については後述）

校務チェックリスト（校務DXの取組が進まない要因（学校））



※学校に対し、すべてのチェックリストの項目について、取組が進まない要因を尋ねたもの。複数回答のため、総和は100%とはならない。

教育委員会が主導して、生成AIの適切な利活用を推進する環境整備を

初等中等教育段階における 生成 AI の利活用に関するガイドライン

文部科学省 初等中等教育局

令和6年12月26日

Ver. 2.0

ガイドラインの構成

① はじめに（本ガイドラインの位置づけ及び構成）

① 生成 AI について

② 基本的な考え方

- 1 人間中心の生成AIの利活用
- 2 情報活用能力の育成強化

③ 学校現場において押さえておくべきポイント

- **教職員が校務で利活用する場面**
- 児童生徒が学習活動で利活用する場面
- 教育委員会が押さえておくべきポイント

ガイドライン参考資料

- 各場面や主体に応じたチェック項目
- 生成AIパイロット校における先行取組事例
- 学校現場で活用可能な研修教材 等



学校現場で利活用する場面

教職員の 校務



- 校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

具体的な利活用例

- 児童生徒の指導にかかわる業務への支援
(授業準備、部活動、生徒指導 等)
ex. 授業で取り扱う教材や確認テスト問題のたたき台を作成する
- 学校の運営にかかわる業務への支援
(教務管理、学校からの情報発信、校内研修 等)
ex. 各種お便り・通知文・案内文のたたき台を作成する
- 外部対応への支援
ex. 保護者会・授業参観・保護者面談の日程調整に活用する



利活用の際のポイント

- AIサービスの**最新の利用規約を確認・遵守**する
- 原則、**重要性の高い成績情報等を入力しない**
- **個人情報保護法等を遵守**すること、**著作権侵害につながるような使い方をしない**こと
- バイアス等の生成AIの特徴を理解した上で、出力された内容を**採用するかどうかは必ず教職員が判断**する
- 管理職は**適切な利活用がなされているかを確認**する

“環境整備を伴う校務DX”

都道府県教育委員会の主導の下で、関連システムを**共同調達・共同利用**しながら、次世代校務DX環境を整備・運用

整備により実現する環境

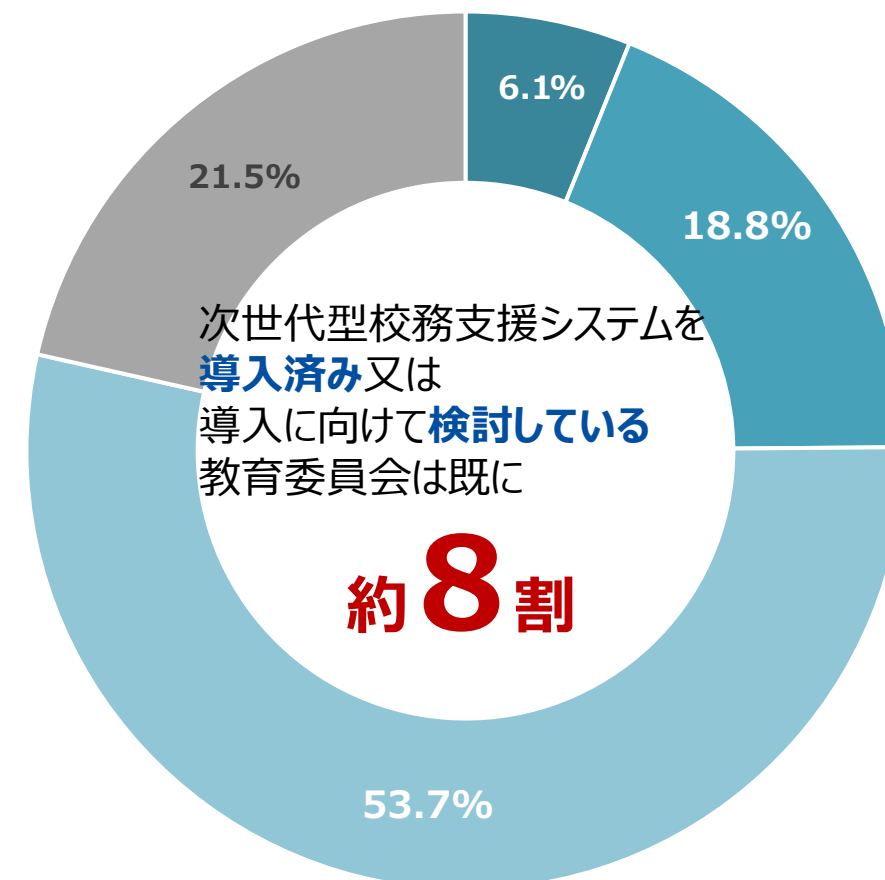
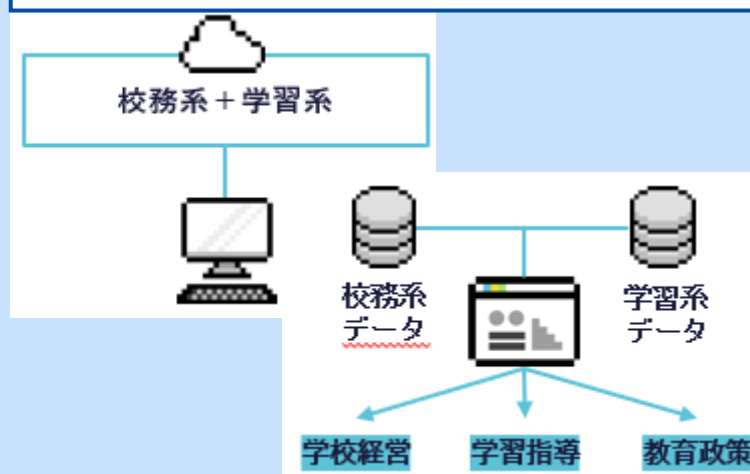
ロケーションフリー・汎用クラウドツール活性化



業務の継続性確保



データ連携・ダッシュボード



■ 導入済み ■ 具体的な導入時期を設定している ■ 導入時期は未定だが検討している ■ 検討していない

“環境整備を伴う校務DX”

都道府県教委と域内市町村教委は各々が独自に取り組もうとしていることを生かしつつも、全体最適を目指し、**丁寧な対話**と適切な**役割分担**が必要

次世代校務DX環境の整備の要素

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| ア. 強固なアクセス制御による対策の実施 | ← セキュリティ対策（いわゆる“ゼロトラ”） |
| イ. ネットワーク統合 | ← ロケーションフリー・データ連携 |
| ウ. クラウド型校務支援システムの整備 | |
| エ. データの可視化・利活用を行うための機能の整備 | ← ダッシュボード実装 |



ビジョン・ロードマップの設定

次世代校務DX環境を整備・運用するには共通の目標（＝**ビジョン**）が重要
ビジョン達成のためには必要な取組を整理した具体的な**ロードマップ**が不可欠

次世代の校務DXビジョン

業務の見直し

...

データ連携・引継ぎ

...

【ポイント】

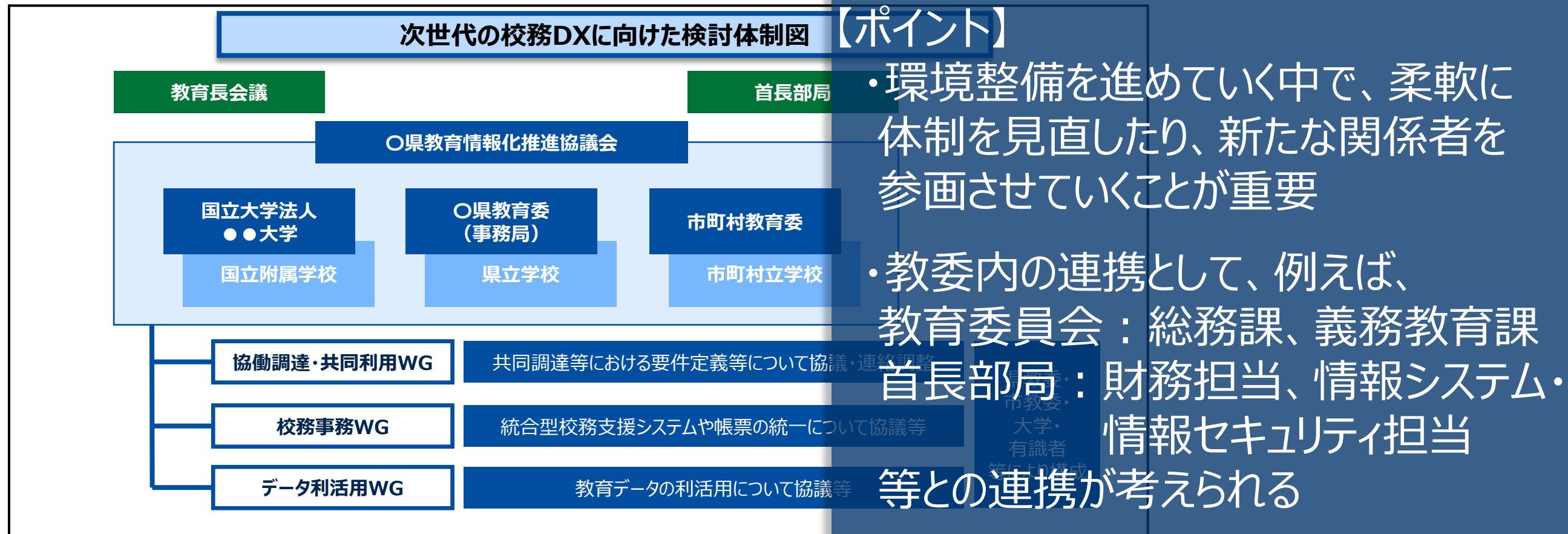
- ・市町村教育委員会の納得感が得られるものでなければならない
- ・各教委や学校関係者で十分に共有しなければならない

次世代の校務DXに向けたロードマップ

【ポイント】

- ・まずはビジョン達成のために必要な取組（体制、環境、ルール、研修等）を整理
- ・次にスケジュールや担当部署を明確化しつつ各取組をロードマップに落とし込む

都道府県教育委が主導して、域内市町村教委等を構成員とする会議体を設置・運営し連携することが必要。また教委内の**部署を超えての連携**が大事



次世代校務DX環境の整備

ビジョン・ロードマップの策定、体制整備ができれば、
都道府県教委の主導の下で、
どのシステムを共同調達・共同利用するかを検討することが必要

【ポイント】

- ・事前の仕様の検討に当たっては、ビジョンの達成に資するものか、
現行の環境や運用実態に即しつつ対応することが重要
- ・共同調達・共同利用のメリットについて、事前に域内市町村教委
等と十分に共有しておくことも重要

次世代校務DX環境の**仕様検討のポイント**は以下の4点

強固なアクセス制御による対策の実施

ネットワーク統合

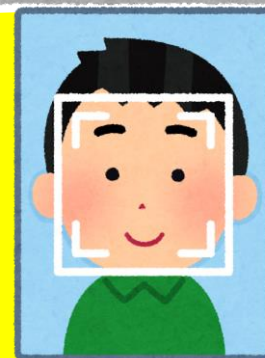
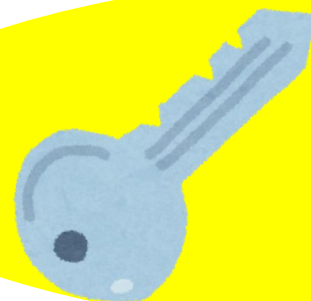
クラウド型校務支援システムの整備

データの可視化・利活用を行うための機能整備

大切なものを保管しておきたいのはどちらですか？

ファイル（紙）ベース

クラウドベース



次世代校務DX環境の整備 -強固なアクセス制御による対策の実施-

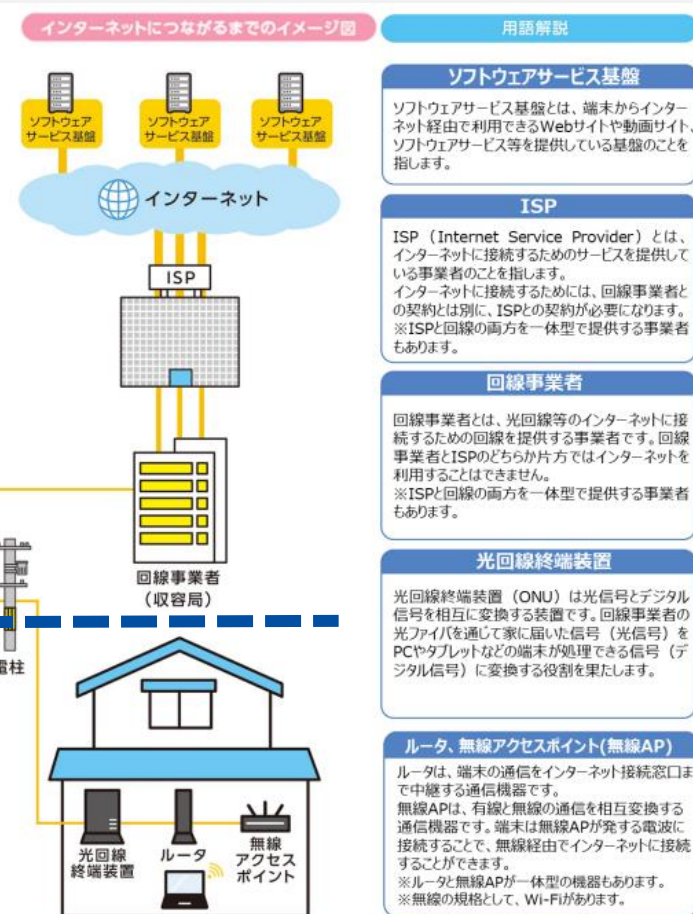
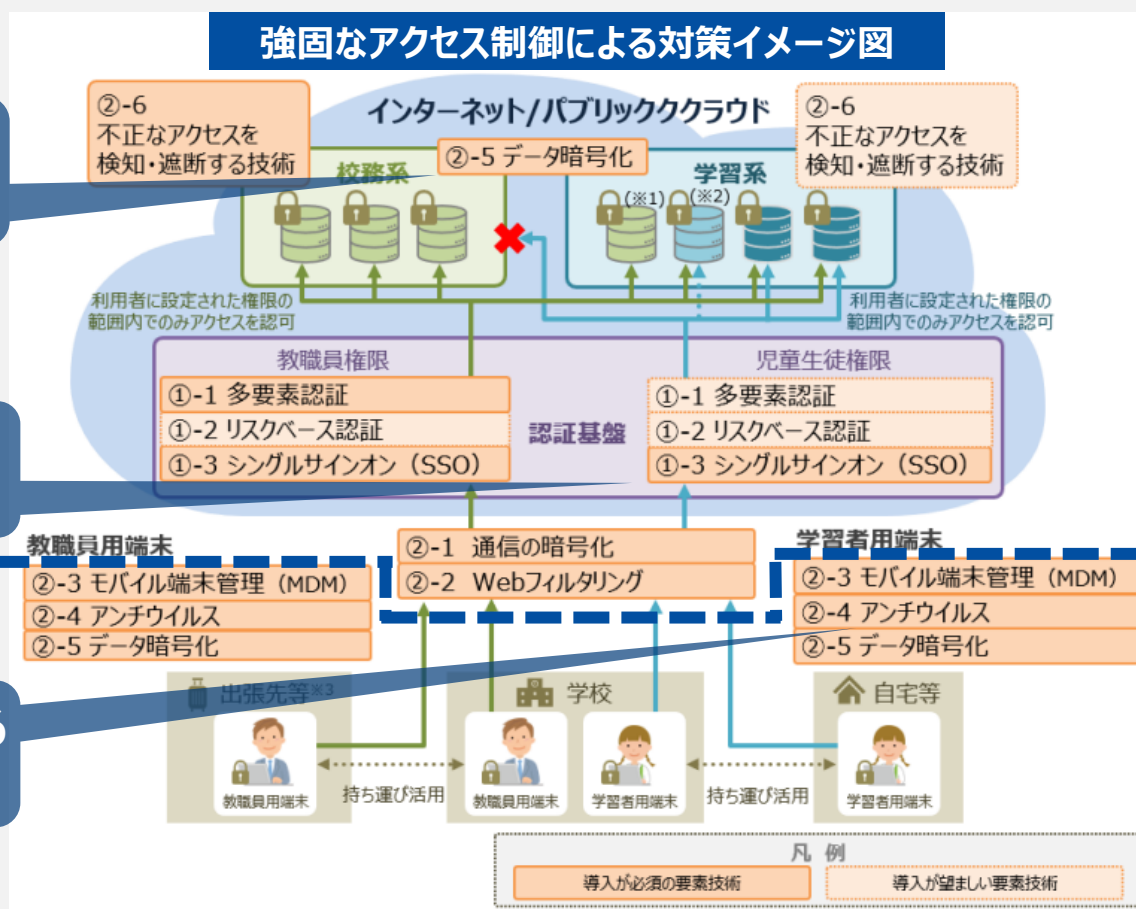
児童生徒の成績情報等の重要性の高い情報をクラウド上で扱うため、**情報ごとに真に必要な者に限定してアクセスできるように対策することが重要**

強固なアクセス制御による対策イメージ図

第三者に内容を見られることを防ぐ

なりすましや不正アクセスから守る

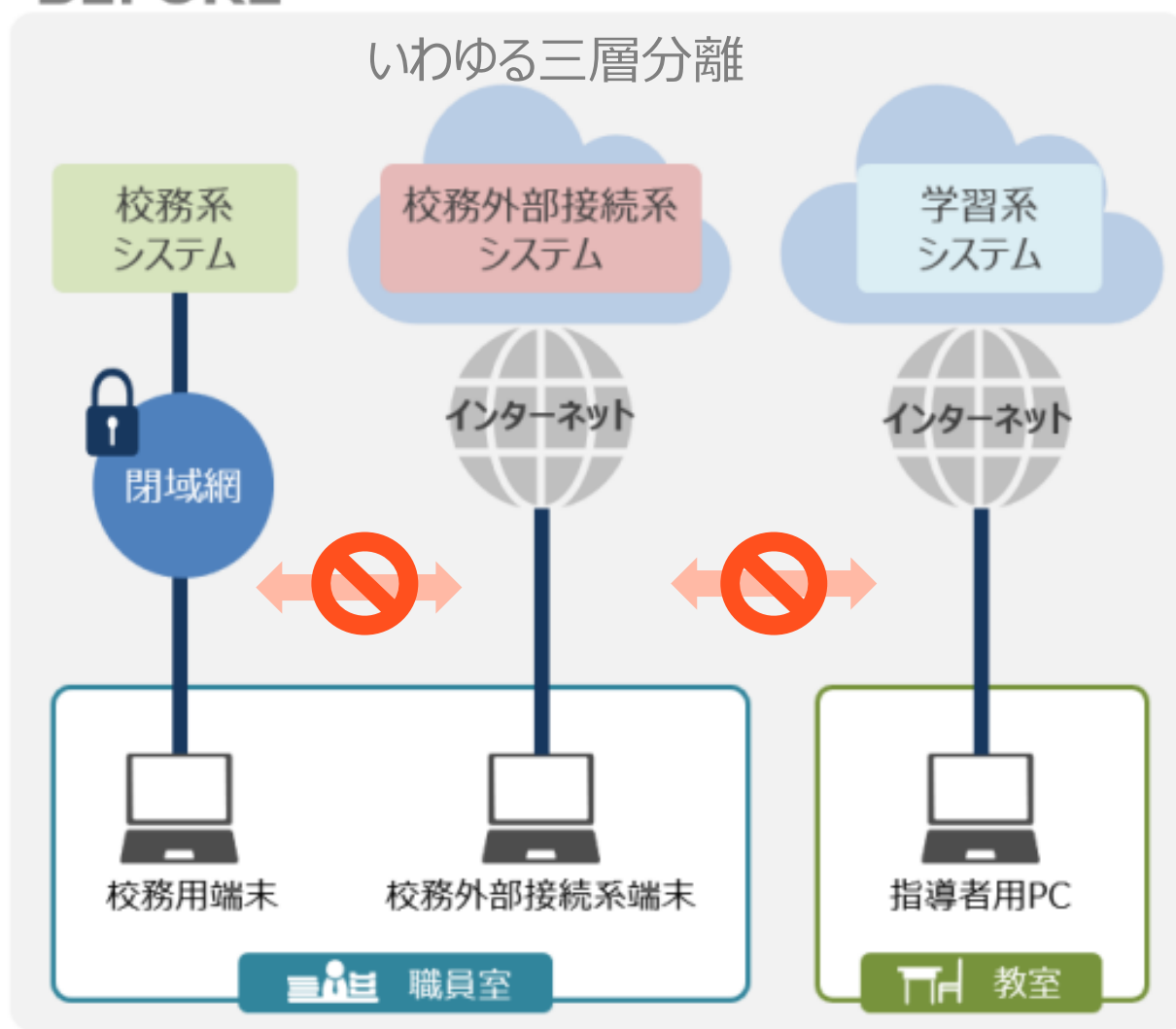
端末を管理・監視する
ウイルス感染を防ぐ



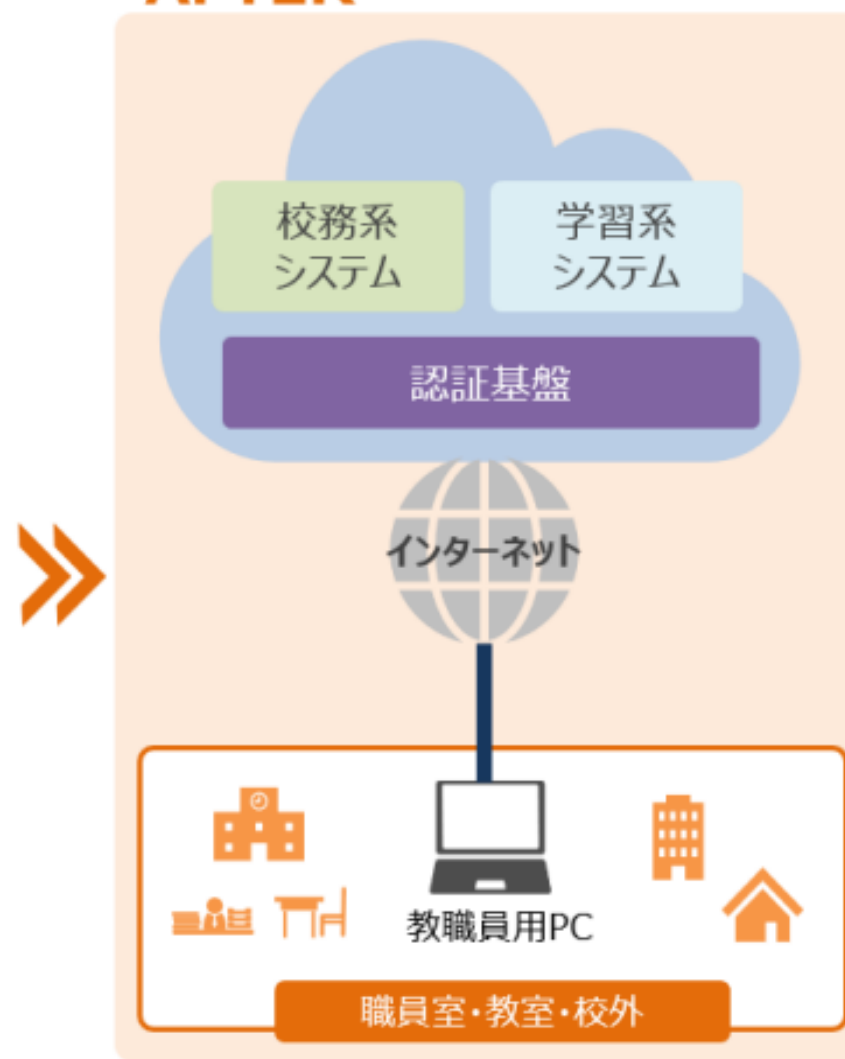
次世代校務DX環境の整備 -ネットワーク統合-

既存のネットワークを統合することで、学校内外どこからでも
教職員用の端末から校務系・学習系システムいずれにもアクセス可能に

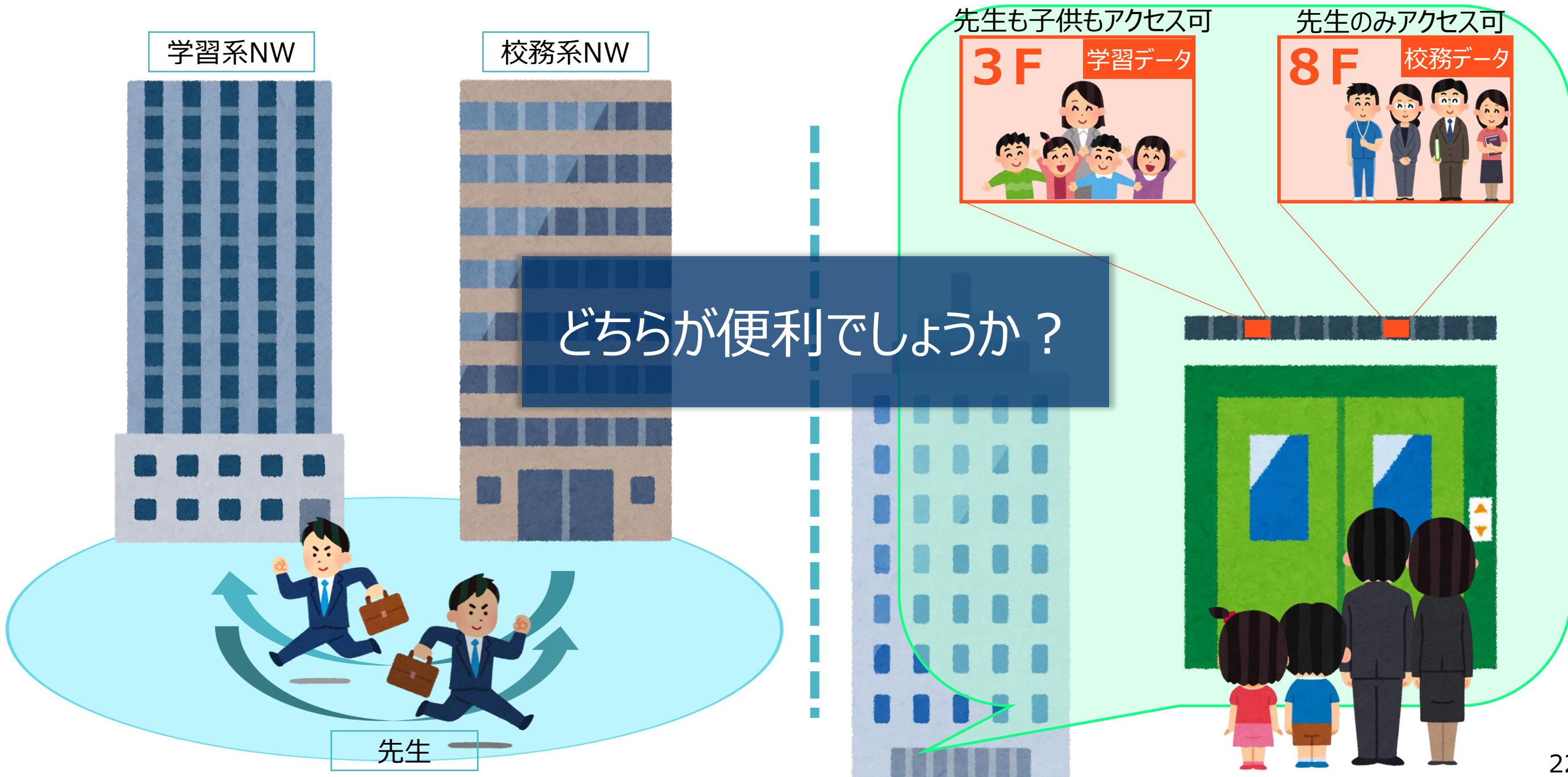
BEFORE



AFTER

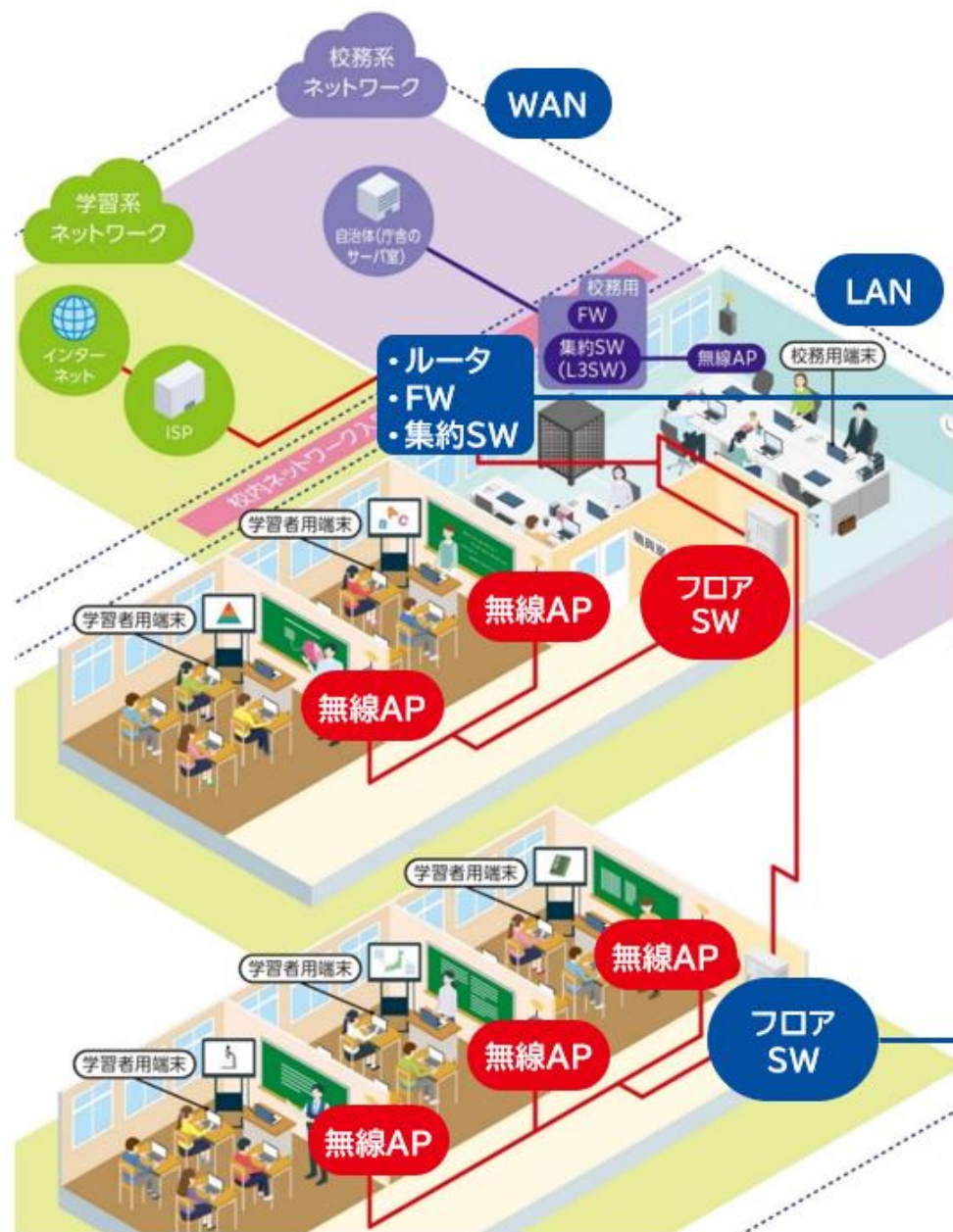


次世代校務DX環境の整備 -ネットワーク統合-



次世代校務DX環境の整備 -ネットワーク統合-

ネットワークの
統合においては、
各種機器の
設定変更等が
必要



WAN	Wide Area Networkの略称 学校外・集約拠点外の広い範囲のネットワークのことを指します
LAN	Local Area Networkの略称 学校内・集約拠点内の限られた範囲のネットワークのことを指します
VPN	Virtual Private Networkの略称 安全に拠点間(学校と集約拠点間等)の通信を行うための仕組みです
FW (ファイアウォール)	外部からのサイバー攻撃等から、学校・集約拠点内のネットワークを守るための通信機器です。
集約SW (L3SW)	集約Switch(スイッチ)の略称 各フロアSW等をまとめるための通信機器です。 ※L3SWともいいます
フロアSW (L2SW)	フロアSwitch(スイッチ)の略称 各教室の無線APをフロア単位でまとめるための通信機器です。 ※L2SWともいいます



次世代校務DX環境の整備 -クラウド型校務支援システムの整備-

クラウド環境を前提とした校務を実施するためには、校務支援システムもクラウドに対応したものを導入することが必要

【ポイント】

- ・汎用クラウドツールを用いてどのような業務を行いたいのかニーズを把握・整理し、システムの機能と汎用クラウドツールとの機能をすみ分ける
- ・システムに搭載する機能や帳票に対しては原則カスタマイズを行わない

クラウド型校務支援システムの提供方法の例

Iaas型 (利用者にCPU機能・ストレージその他の基礎的な情報システムの構築に係るリソースが提供される)	Saas型 (利用者に特定の業務系のアプリケーション・コミュニケーション等の機能等がサービスとして提供される)
カスタマイズしやすい	カスタマイズ・データ引継ぎが困難
管理コストがかかることが多い	管理が比較的容易

・どちらも適切なセキュリティ対策が必須

帳票の参考様式

● 帳票標準化に関する

本事業の成果物

帳票標準化 文科省

検索

帳票参考様式

- 出席簿(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:755KB)
- 在学証明書(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:364KB)
- 学校日誌(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:334KB)
- 定期健康診断の記録(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:347KB)
- 保健日誌(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:237KB)
- 健康診断結果のお知らせ 視力(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:300KB)
- 健康診断結果のお知らせ 眼科(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:310KB)
- 健康診断結果のお知らせ 耳鼻咽喉科(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:374KB)
- 健康診断結果のお知らせ 内科(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:234KB)
- 健康診断結果のお知らせ 尿(1次検尿)(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:240KB)
- 健康診断結果のお知らせ 尿(2次検尿)(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:242KB)
- 健康診断結果のお知らせ 歯・口腔(参考様式・サンプル・出力要件) (PDF:340KB)



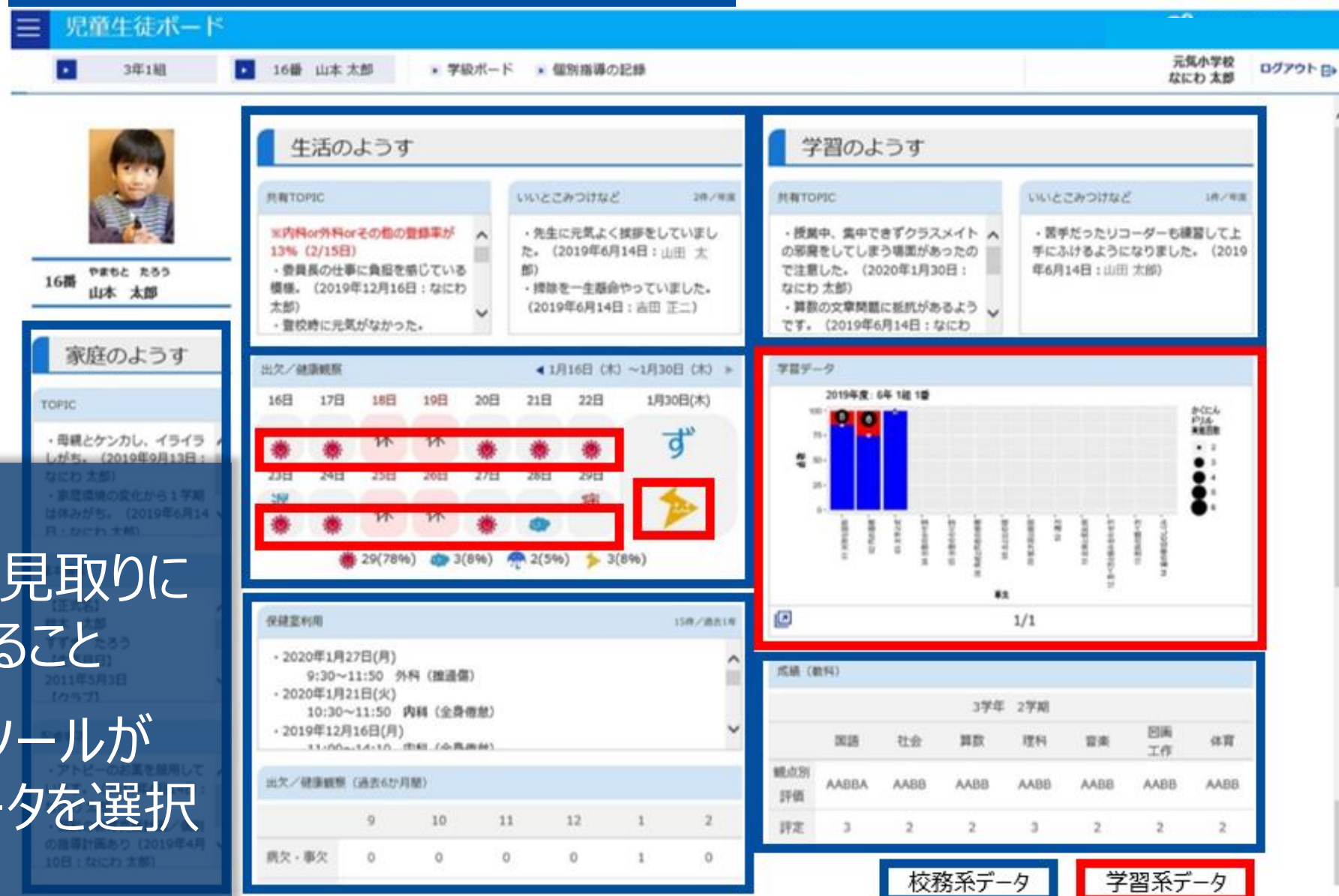
次世代校務DX環境の整備 -データの可視化・利活用を行うための機能の整備-

データ統合・可視化により、児童生徒へのきめ細かな指導や、効果的な学校経営が可能に

【ポイント】

- ・従来の教職員の観察や見取りによる情報とのバランスをとること
- ・どのようなデータ可視化ツールが適切か定め、必要なデータを選択することが必要

ダッシュボード機能を用いたデータの可視化の例



従来のルールありきではなく、新たな環境・運用に応じて**策定・改定**が必要
必要なルールの**ひな形**を作成し、市町村教委に共有することも有効

クラウド活用に関するルール	ロケーションフリーの実現に関するルール
ペーパーレス化や電子ファイルの原本化を可能とし、適切なセキュリティ対策、システムの管理を確保するために以下のルールの策定・改定が想定される。 ・教育情報セキュリティポリシー及び実施手順 ・文書管理規則 ・情報ネットワークシステム運用管理規則 ・個人情報管理規則 等	端末の持ち出しを可能とし、また適切な勤怠管理を確保するために以下のルールの策定・改定が想定される。 ・教職員用端末の運用に関する規則 ・勤怠管理に関する規則 等

【ポイント】

- ・ルール整備の観点からも、教委内の部署を超えての連携が重要

次世代校務DXの実現に際しては、教職員の理解や効用の実感が不可欠
特に**セキュリティ対策**やデータ利活用に関する研修が有効

【ポイント】

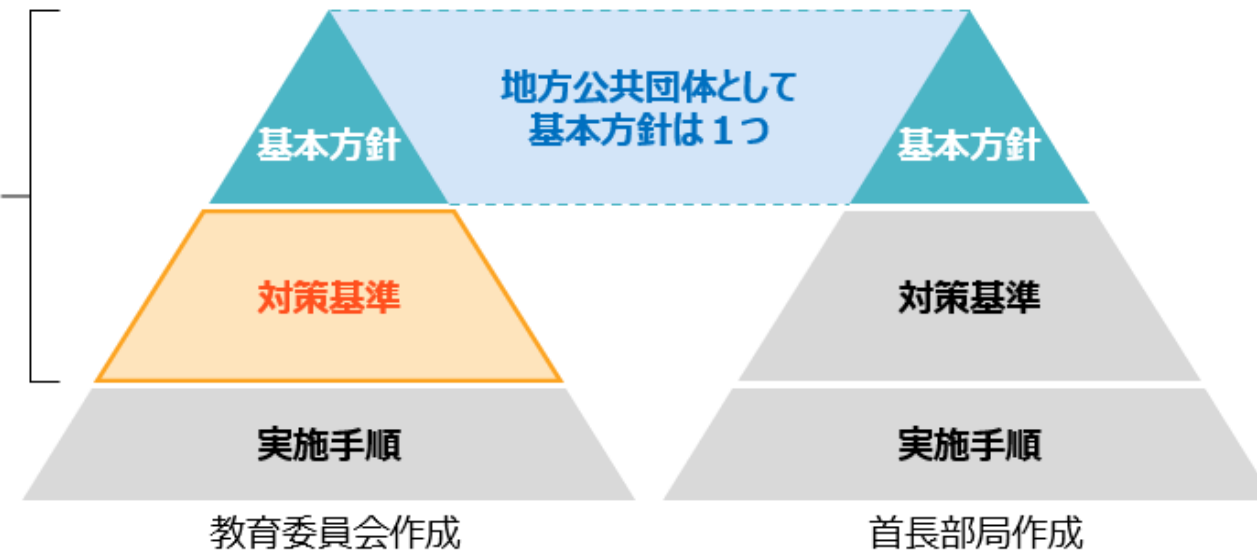
- ・相手や目的に応じてオンライン、集合型、オンデマンドなど工夫を

セキュリティ対策のポイント

何を守るのか？	何から守るのか？	どのように守るのか？
情報資産 <情報資産とは> 学校が保有している情報そのもの（文書やデータファイル）や、その情報を生成・保管・流通する媒体（紙、ネットワーク、サーバ、端末等）	セキュリティを侵害して損害を引き起こす要因 （＝脅威）	・ 人的セキュリティ ・ 技術的セキュリティ ・ 物理的セキュリティ対策を組み合わせる

物理的セキュリティ対策	サーバ、通信回線等の機器の設置や設定、保守管理に関する措置や機器等の管理区域の適切な管理等の物理的な方法を通じて情報資産を守る対策
人的セキュリティ対策	情報資産を取り扱う当事者の ルール遵守 などを通じて情報資産を守る対策
技術的セキュリティ対策	ハードウェア・ソフトウェアやネットワークなどに対するアクセス制御、不正プログラム対策、不正アクセス対策等の技術的な安全管理措置を通じて情報資産を守る対策

教育情報
セキュリティ
ポリシー



自治体のセキュリティポリシーとは別に、教育情報セキュリティポリシーを教育委員会独自に策定していますか。



校務DXを通じて、教師がICTを積極的に活用することにより、
“教師の働き方が改善する”
のみならず
“授業の改善にもつながる”

GIGAスクール構想の理想形

『次世代校務DXガイドブック』
を積極的に活用していただき、
校務DXの取組の推進に御協力ください！





文部科学省